

宮代町立図書館協議会 指定管理業務

令和7年度 期末モニタリング用 図書館協議会アンケート（全体集計）修正後

第2次図書館ビジョン

1. 利用しやすさ（利便性）の向上

- ア 開館時間の見直し（★）
- イ 館外サービスの充実（★）
- ウ 資料検索、リクエスト、貸出サービス等の改善・充実（★）
- エ 開館（休館）日の見直しの検討

※（★）：特に重点的に取り組むべき課題（第2次図書館ビジョン）。以下同じ。

■評価

良好1・概ね良好3・努力（改善）を望む2

■理由・ご意見等

○ア・エ：開館時間、開館日については、検討されてきていますので現行で良いと思います。

ウ：・貸出サービスについては、丁寧な対応がされていると思います。

・携帯の画面での予約のやり方が以前からお伝えしていますが初めて予約する方には、分かりにくいと思います。変更することは難しいのでしょうか？

⇒回答等：ご意見ありがとうございます。

予約操作の分かりやすさにつきましては、現行システムの制約も踏まえつつ、利用者への案内方法の工夫等を含め改善を検討してまいります。

また、貸出冊数の減少傾向につきましては、利用促進施策の強化を含め、（実施した施策として、ゆる読、みんなのオススメこれよんだ、準新刊棚の設置）要因分析を行いながら対応を検討してまいります。

また4月より図書館システム更新のタイミングでLINE連携を導入しましたので、利用者様の利用し易さ改善のお声を聴き、評価してまいります。

○昨年のアンケートでも書きましたが、住民一人当たりの貸出冊数が令和5年度から令和6年度にかけて7.16冊から6.70冊まで落ちていて、今年度も貸出冊数が減少傾向にあります。引き続きより多くの子どもや町民が図書館を利用できるような方策を検討してください。

○いろいろ整理されていたり、見やすくなっていたり、使いやすい施設だと思います。特集コーナーも良好のようで素晴らしいです。

○通常の生活上、開館時間、開館日等、問題はないのではないのでしょうか。

館外サービス等、通常の流れであり、公共施設や事業所等と連携して、どのくらいのニーズがあるのだろうか。

求める資料を急ぐ人への案内や対応方法も紹介していただけると有難い。

どの程度、購入希望リクエストに対応できているのかがわかると有難い。

日本工業大学LCを利用することができるので、有難い。

⇒回答等：開館時間及び開館日につきましては、現在の運営に大きな支障はないものと認識しております。今後も利用状況等を踏まえながら、利用しやすい図書館運営に努めてまいります。

また、資料をお急ぎの場合の対応につきましては、予約・リクエストサービスや他自

治体図書館との相互貸借などの制度をご案内しております。日本工業大学LCにつきましても、利用可能なサービスの一つとして、必要に応じてご案内してまいります。今後も、こうした利用方法について分かりやすい周知に努めてまいります。

購入希望リクエストにつきましても、資料収集方針や所蔵状況、予算等を踏まえながら可能な範囲で対応しております。

館外サービス等につきましても、利用状況やニーズを踏まえながら、今後のサービスのあり方を検討してまいります。

○館内が清潔で書籍も探しやすいと思います。

仕方のないことなのですが、話題になった本を借りようと思った時に数十人待ちのことがあり、借りることを断念することがしばしばありました。

一過性の人気の可能性もあり、そのために冊数を増やすことは難しいと思いますが話題の本を読むことが読書のきっかけにもなると思うので、何か良い方法があればと思いました。

○ブックポストによる返却利便性の向上は評価されるが、昨年度から継続中の和戸・須賀地区につて、須賀小再整備に委ねられていて不確定。

⇒回答等：ブックポストによる返却利便性向上につきまして、ご評価いただきありがとうございます。和戸・須賀地区におけるサービス展開につきましては、須賀小学校再整備の動向とも関係する事項であり、現在も関係部署と情報共有を行っております。今後につきましても、地域の利便性向上の観点から、状況を踏まえながら検討してまいります。

○ビジョン基本理念の「すべての人に使いやすい」を実現するには、

イ：館外サービスは必須重要と考える。図書館に来られない障害者、高齢者を重点対象として＜登録から受け渡し（貸出・返却）交流＞まで含む内容で推進されたい。移動図書館（ブックモバイル）宅配サービス等「予算・人力的に無理です」で継続されてきている現状、打開策を打ち出して下さい。

⇒回答等：「すべての人に使いやすい図書館」という理念につきましては、図書館としても重要な課題認識を共有しております。来館が困難な高齢者・障がいのある方へのサービスにつきましては、団体貸出や電子書籍サービス等も含め、現状の取り組みを継続しながら、今後のあり方について検討してまいります。

また、移動図書館や宅配サービス等につきましても、運営体制や地域ニーズ、関係機関との連携を踏まえながら、実現可能性を含め研究してまいります。

第2次図書館ビジョン

2. レファレンスサービスの充実と利用促進

ア 相談窓口（スタッフ）の設置（★）

イ 利用の促進（★）

■評価 良好2・ 概ね良好4・ 努力（改善）を望む0

■理由・ご意見等

○ア：相談窓口の対応も丁寧に行われていると思います。

イ：特集コーナー展示がいつも考えられていて良いと思います。

先日の「整える」のテーマもいろいろなジャンルの整える本を
収集されていて（来館者のニーズに合っていたかと）よく借りられてい
たようで良かったです。

⇒回答等：ご評価ありがとうございます。

○昨年のアンケートの回答で医療系パスファインダーを配架しているとのことでしたが、利用状況はどうですか？

⇒回答等：ご評価ありがとうございます。

医療系パスファインダーの利用状況につきましては、現状を確認し、より活用される
ための見せ方や周知方法を検討してまいります。

また、4月より新しく、「笠原小学校」と「進修館」の調べ方のパスファインダーを
館内のOPAC横に配置しました。今後も郷土のレファレンスを増やしてゆく予定で
す。また、パスファインダーをHPにも掲載予定で改修を依頼しております。

○昨年の利用者アンケートの中に「園芸や家庭菜園をやりたいので初心者向けコーナー
を作ってほしい」という要望がありました。コーナーを作る、そうした本を紹介する
パンフレットを作る、東武ストアや新しい村などに地元野菜を入れている農家の方の
話を聞く、そうした初心者向けの雑誌や本を購入する等などいろいろ考えられますの
で、検討していただけるでしょうか。（図書館で購入している雑誌「現代農業」は少
し難しいように思います）

⇒回答等：園芸・家庭菜園分野につきましても、利用者ニーズを踏まえた資料紹介やコ
ーナー開について検討してまいります。

また、雑誌では2018年より「趣味の園芸やさいの時間」を購入しております。（「趣
味の園芸」はもっと以前から）2016年から数年間、「やさしい野菜作り講座」を
開いておりましたが、近年は代わりにマネー講座に変更しております、また改めて検
討します。

○調べたことをどうやって調べたらいいのか、相談できることを知らない方もいらっし
ゃと思うのでPR広告をつくっておくとよいかもと思いました。

⇒回答等：ご意見ありがとうございます。

レファレンスサービスにつきましては、「どのように調べたらよいか」を相談できる
サービスであること自体が、まだ十分に知られていない面があると認識しておりま
す。今後は、館内表示やPR方法の工夫を含め、利用者により分かりやすく周知でき
るよう検討してまいります。

○スタッフがいてくれるだけでも有難いと思う。

新刊書や新書が少ない。継続本が紛失等で？欠けているので、仕方ないと思いつつも
検索する気力が薄れてしまう。

⇒回答等：日頃より図書館をご利用いただきありがとうございます。

また、スタッフ対応について温かいお言葉をいただき感謝申し上げます。新刊書や新
書、シリーズ資料の欠巻等につきましては、予算や資料の状態等を踏まえながら対応

しておりますが、利用者の読書意欲や資料探索に影響するご意見として受け止めております。今後も、資料の補充や選書のバランスを含め、より利用しやすい蔵書構成となるよう努めてまいります。

○以前、息子がリファレンスでお世話になりました。

目当ての本はなかったのですが、類似の本を提案していただきとても助かりました。リファレンスサービスがあることを知らない方が多いと思うので、まずは知っていただくことが大切なのではないかと思えます。

○スタッフに相談しやすい雰囲気作り努力が継続されている。更に新鮮なポップ広報で充実な利用促進が進みますように。

第2次図書館ビジョン

3. 利用者ニーズ・地域課題に対応した資料収集

ア 多様な情報資料の蓄積と提供 (★)

イ 電子 (デジタル) 資料の充実と利用促進 (★)

■評価 良好1・概ね良好4・努力(改善)を望む1

○イ：日工大生ボランティアによるスマホ・パソコン相談会は、図書館では初めてのことで利用者はそんなにたくなかったようですが、認知されれば (私も相談させてもらいましたが) 大変良い企画だと思うので、今後も引き続き実施していただきたいです。

○電子書籍の貸出は令和6年度の埼玉県統計ではさいたま市が52,613冊と多く、川越市、久喜市、越谷市、草加市が2万冊台、春日部と川口市が1万冊台となっています。やはり宮代の300冊台はいかにも少ないと思います。貸出しの多い自治体を参考にするなど貸出しを増やす方策を考えてほしいです。

○昨年の利用者アンケートで電子書籍を利用していると回答した人が12.1%いました。電子図書館サービスを知っている人が47.7%でしたから、もう少し利用があってもいいと思います。もしかすると利用している人の大半がコミックではないかとも思われます。次回の利用者アンケートでは利用しているジャンルについても設問したらどうでしょうか。

⇒回答等：ご意見ありがとうございます。電子書籍の利用促進につきましては、他自治体の事例も参考にしながら、周知方法やコンテンツの充実について検討してまいります。

また、利用状況の把握に向けたアンケート設計の見直しについても検討してまいります。料理・実用書分野の充実についても、選書の中で検討してまいります。

○今後力を入れてほしい分野として小説に次いで多かったのは料理本や実用書でした。その他に書いたこととの関連でもこの分野の資料の充実を望みます。

⇒回答等：ご意見ありがとうございます。

料理本や実用書につきましては、利用者アンケートにおいてもニーズが高い分野であると認識しております。

日常生活や暮らしに役立つ資料として、利用状況や蔵書バランスを踏まえながら、引き続き資料の充実に努めてまいります。

○多様な情報資料とは、どういうものか？

電子資料は、購入の仕方で利用期間が限られる場合がある。どのような基準で構築していくのか？

地域課題に対応した資料は、収集方法としては別のような気がする。

⇒回答等：「多様な情報資料」につきましては、図書・雑誌・新聞に加え、電子書籍や地域資料、視聴覚資料等を含め、利用者の多様な興味・課題に対応するための資料全般を想定しております。

また、電子資料につきましては、提供期間や利用条件が異なる契約形態があることから、利用状況や費用対効果、利用者ニーズ等を踏まえながら選定・構築を行っております。

なお、地域課題に対応した資料収集につきましては、一般的な資料収集とは異なる視点も必要であると認識しており、地域特性や行政課題、利用者ニーズ等を踏まえながら検討してまいります。

○利用者ニーズの把握は来館されている方達の声やモニタリングアンケートからされているのだと思いますが、未だ利用されていない、利用できない人達へのアプローチ(図書館の存在やその内容を知って貰う)した上で、町民のニーズを把握することも必要ではないでしょうか。

⇒回答等：ご意見ありがとうございます。

利用者アンケートや日常のカウンター対応等を通じたニーズ把握に加え、図書館を利用されていない方や来館が難しい方へのアプローチについても重要な課題であると認識しております。

今後は、関係機関との連携や情報発信の工夫等を通じて、図書館サービスの周知と、多様な町民ニーズの把握に努めてまいります。

○スマホ・PC相談会実施で電子書籍の利用は促進されつつあると思われますが、年間利用状況(3月10日資料1)前年比72%と現実ではそのニーズはまだまだ低いと思われます。

第2次図書館ビジョン

4. 高齢者、障がい者向けサービスの充実

ア 高齢者向けサービスの充実(★)

イ さまざまな障がいに対応したサービスの充実(★)

ウ 来館が困難な障がい者や高齢者向けサービスの実施(★)

■評価 良好0・概ね良好5・努力(改善)を望む1

■理由・ご意見等

○ウ：来館が難しい方に 他館でもやられている宅配サービスの検討はいかがでしょうか？予算面や人員面で難しいかとは思いますが・・・

⇒回答等：宅配サービスにつきましては、運用面・体制面を踏まえながら導入の可能性

を検討してまいります。

○昨年『肢体不自由の子どもの読書を支える』（読書工房）という本が出ました。宮代町立図書館の蔵書にぜひ加えてください。この本の中で重度肢体障害の子どもたちに絵本を読む場合の注意点や絵本の選び方について細かく述べられています。（田中美成「肢体不自由特別支援学校に通う子どもたちの読書と認知特性・障害との関係性～絵本を使った授業から」（P 18～28））図書館としても重度肢体障害の子どもたちへのサービスを考えてほしいです。この本のほかの部分も含めて子どもへの読み聞かせを行っている方たちに是非とも読んでほしいです。最近は音声読み上げ装置が進歩していますので電子書籍をAIによる好きな声で読んでもらうということも可能になりました。視覚障害や本を持てない肢体障害、ディスレクシア、寝たきりの方等など本では読むことの難しい方にも利用してもらえるように電子書籍の利用について考えていただきたいです。

⇒回答等：障がいのある方への読書支援については、関連資料の収集や電子書籍の活用も含め、サービスのあり方を検討してまいります。

○電子書籍サービスも学校に導入され、いろいろ予算面でも苦勞なさっているところもありますが、引き続き充実されると良いと思います。

○障害の有無に限らず（移動手段などで）、図書館に来るのが困難な方も多いと思います。

移動図書館や分館（月1でも）、配送など何かの手段で本を気軽に手に取る機会が増えたらと思います。

○ア：よみうり回想サロン、バリアフリー映画会継続、イ：布えほん、ディジー資料貸出し実施予定と精力的に推進されています。

○各種施設への団体貸出だけでなく、来館困難者のニーズを把握した上での施策を検討されたい。

⇒回答等：ご意見ありがとうございます。

団体貸出に加え、来館が困難な方へのサービスにつきましては、ニーズ把握そのものも重要であると認識しております。

今後は、関係施設や関係機関との連携も含め、どのような支援やサービスのあり方が可能か、利用実態や地域ニーズを踏まえながら検討してまいります。

第2次図書館ビジョン

5. 子供の読書活動の推進と小中学校との連携

ア ボランティアとの連携による魅力ある行事の継続開催（★）

イ 乳幼児を連れた保護者向けサービスの推進（読書による子育て支援）（★）

ウ 児童や青少年（ヤングアダルト）の読書活動の促進、図書館利用につながる行事等の継続開催（★）

エ 小・中学校との連携（支援）（★）

■理由・ご意見等

○イ・ウ：行事を少し選んで減らしていても良いのではないのでしょうか。本来のレファレンスや選書、ブックトークなどに充てる時間を充実してほしい。

⇒回答等：行事の実施内容につきましては、業務全体のバランスを踏まえ、効果的な実施となるよう検討してまいります。

エ：昨今の子どもを取り巻く読書環境は、悪化の一途を辿っています。宮代町と周辺部には、書店が無くなってしまいました。また、子どもたちの学校で過ごす以外の時間…放課後や休日にも外遊びする子どもが激減し（野球やサッカー、ボール遊びの制限が加わっていることも要因と思われます）YouTubeやゲームに多くの時間を費やしているのが現状です。子どもたちの豊かな育ちに必要な 外遊び+本の時間を保つことが難しくなっています。子どもたちが、今、実際に本を手にとって、触れて選ぶことができるのは、図書館と学校図書室だけに。そのような現実を考える時、図書館の、子どもたち（保護者も含めて）と本をつなぐ読書推進活動は今まで以上に重要な役割を担っていると思われます。

そのために以下のことを提案いたします。

1. 現在、週1回2時間の小中学校図書室への派遣が実施されていますが、この回数にとどまらず、学校にも働きかけて、ブックトークの機会を増やしていく。（長年、学校でブックトークをやってきましたが、子どもたちと本を結ぶのに、大変効果があることを実感してきました）
2. 図書館の児童のコーナーへの提案です。絵本から読み物への移行をどうしたら促すことができるか？今、絵本までは読んでやっても読み物をおうちの方が読んでやるということが減ってきています。そのため、昔話や幼年童話など幼い子どもたちにとって大切な読み物の本の貸出が芳しくない状況です。そこで、【「～幼年童話や昔話をおうちの方が読んでやるといいですよ」、そして「それが、自立の読書や長い読み物への橋渡しになりますよ～」ということをお知らせする啓蒙文と本（幼年童話・昔話を選び）を書棚の上に面出して置く。】【本と啓蒙文は、時々入れ替える。】というような事を提案します。（私も一緒にやりますので）
3. 児童コーナーの担当者を増やす。児童のコーナーにカウンターが設置されている図書館は少ないと思いますが、この利点を活かすためには、なるべくカウンターの奥で作業するのではなく、カウンター前で利用者サービスや本を読む（児童書を知る）作業をしていただきたいです。

そして 1～3のことをすすめていただくためにも児童担当者を増やしていただくことを提案します。

⇒回答等：児童サービスの充実に向けては、学校との連携やブックトークの機会拡充を含め、関係機関と調整しながら進めてまいります。

また、児童コーナーにおいては、カウンター内外に関わらず、利用者にとって声をかけやすく、様子が伝わる位置での対応や作業を意識し、子どもたちに親しみを持ってもらえる環境づくりに努めてまいります。あわせて、児童担当体制のあり方についても、現場の状況を踏まえながら検討してまいります。

○昨年のこのアンケートの回答の中に年1回ボランティア連絡会を行っています、との回答がありましたが、具体的な内容についての報告はなかったと思います。できれば私たち図書館協議会の委員も出席できるように考えていただけないでしょうか。参加

グループが協力してできることなどを模索できればいいと思います。何度も申していますが、小中学校の学校図書館には専任のスタッフを配置していただきたいです。

⇒回答等：ボランティア連絡会については、これまでの内容共有のあり方を課題と捉えており、今後は報告・共有の方法を検討してまいります。

また、図書館協議会委員の皆様のご参加についても、会の目的を踏まえた連携のあり方を検討してまいります。なお、小中学校図書館の専任スタッフ配置につきましては、所管部署において検討される事項であると認識しております。図書館としては、現場の状況を共有しながら、学校図書館機能の充実に向けたあり方について、関係機関と連携してまいります。

○ボランティアの確保はできているのだろうか？

学校が分散されているので、同じ対応を求めるのは無理ではないだろうか。

司書教諭としての時間が確保され、運営できる時間があるのだろうか？

図書館側だけでなく、学校側からの働きかけがないと難しいと思われる。

⇒回答等：ご意見ありがとうございます。

学校ごとに状況や体制が異なる中で、一律の対応が難しい面があることや、学校側との連携・協力が重要であることについて、図書館としても認識しております。

また、ボランティア活動や学校図書館運営につきましても、関係機関と情報共有しながら、継続的な連携のあり方を検討してまいります。

○子どもたちの本離れが懸念されている。

・児童生徒向けの町のPR(プレゼン)を試みる。

・子育て支援センターと連携した読み聞かせなどはいかがでしょうか。

⇒回答等：ご意見ありがとうございます。

子どもの読書環境の変化につきましては、図書館としても重要な課題であると認識しております。

児童生徒向けの情報発信やPRのあり方につきましても、今後の参考とさせていただきます。

また、子育て支援センターをはじめとした関係機関との連携につきましても、読書活動推進の観点から可能性を検討してまいります。

○小学校で読みがたりボランティアをしています。

これからも小学校の先生方と協力し、活動が続けることにより読書活動の促進を図りたいと思います。

○事業概要報告の1ページ半(約40%)を占めるこの項目全て充実度が高い。

今後はスタッフの負担、ボランティアの高齢化、人員減等が課題となっていくと思われます。

○子どもの読書活動の推進には、学校との連携が欠かせないのは事実で、宮代の場合小学校との連携はかなり充実していると思われますが、多忙な先生方との協働には難しい点も多い。図書館側から出来ることとして<図書館に来る、集まる、利用する仕掛け>を出来れば中学生対象の企画アイデアを考察して欲しい。

⇒回答等：ご意見ありがとうございます。

小学校との連携につきましてご評価いただきありがとうございます。

一方で、学校現場の状況や教職員の負担等を踏まえながら進めていく必要があることについても認識しております。

中学生世代に向けた図書館利用の促進につきましては、図書館に来たくなる・集まりたくなるような企画や情報発信のあり方を含め、今後の取り組みの参考とさせていただきます。

第2次図書館ビジョン

6. 地域に根差し、住民・利用者とともに育む図書館運営

- ア 専門的職員の配置と育成 (★)
- イ 住民や利用者の交流と図書館運営への参画 (★)
- ウ 情報の公開と発信の強化 (★)

■評価 良好1・概ね良好5・努力(改善)を望む0

■理由・ご意見等

○さまざまなたくさんのイベントを実施されていると思います。特に動物公園の講演会はいつも盛況で良かったです。こちらでも行事を実際にやってみて、今年度もやるかどうかは、よく検討していただくことをお願いします。忙しくなることは、サービス低下を招く一因になりかねないと思います。

⇒回答等:動物公園との連携事業につきまして、ご評価いただきありがとうございます。各種行事につきましては、参加状況や実施効果を踏まえながら継続的に見直しを行っております。

また、イベント実施と日常サービスとのバランスにつきましても重要な視点であると認識しており、利用者サービスの充実につながる運営となるよう検討してまいります。

○TRCでは毎年様々な研修を行っているようですが、宮代図書館の職員がどのような研修会に参加しているか、また県立図書館が実施しているどのような研修に参加しているかを知りたいです。

⇒回答等:職員研修の状況につきましては、共有方法を含め検討してまいります。

○毎年利用者アンケートは実施していますが、直接話ができるような利用者懇談会などは開けないでしょうか。

⇒回答等:利用者懇談会の開催についても、実施方法を含め検討してまいります。

○宮代図書館協議会の議事録が公開されていますので、広く読んでもらえるように図書館だよりなどでPRしたらどうかと思います。

⇒回答等:図書館と検討します。

図書館協議会議事録の周知については、開架に配置してはありますが、広報手法の工夫を検討してまいります。

○東武動物公園講演会ホワイトタイガー飼育係の仕事参加したかったのですが同じ日同じ時間にほかに参加しなければならない事業があつて行けませんでした。今後も動物園とタイアップした講演会など企画していただけると嬉しいです。

○何を専門というのか？イベントが多いのは有難いが、スタッフのスキルアップ教育が大変ではないだろうか。

⇒回答等：ご意見ありがとうございます。

図書館に求められる役割やサービス内容が多様化する中で、スタッフには接遇・資料相談・読書推進・行事運営など、幅広い対応力が求められていると認識しております。また、イベント実施と職員研修・スキル向上とのバランスにつきましても重要な視点であると考えており、業務全体の状況を踏まえながら運営してまいります。

○図書館運営の中の選書にスタッフ以外の人に関わることはできないのでしょうか。最終決定は当然TRCスタッフがするものとして過程の段階で住民・利用者参加の＜情報提供・推奨を聞く＞交流会的なものが年間数回でもあると「ともに育む」の実現になると思います。

去年のモニタリング8ページに児童書のほうでは既になされている様なので一般書のほうでも是非お願いします。

⇒回答等：

ご意見ありがとうございます。

選書につきましては、図書館の資料収集方針や蔵書構成全体のバランスを踏まえ、図書館が責任を持って行っております。

一方で、利用者の皆様からのリクエストやおすすめ本の紹介など、ご意見を伺うことは資料収集やサービス向上において重要であると考えております。

今後も利用者ニーズの把握に努めるとともに、住民・利用者の皆様との交流や意見交換のあり方について検討してまいります。

○いろいろなイベントや取組をしていらっしゃるの素敵です。

○行きたくなる理由をつくる体験型の図書館

ミステリー小説フェア・子ども向け科学実験・健康セミナー・ワークショップ・交流会など。

○居場所としての魅力を高めるために、カフェスペースや雑談可能エリア、静かに集中できる個別ブース、子どもが安心して過ごせるキッズスペース…など落ち着く場所になればいいかなと。

第2次図書館ビジョン

7. 施設の適切な維持改善と快適な利用環境づくり

ア 施設、設備の改修（★）

イ 既存施設の活用、改修等による飲食、交流スペースの創造（★）

ウ 閲覧、学習スペースの充実（★）

■評価 良好1・概ね良好5・努力（改善）を望む0

■理由・ご意見等

○鳥が度々 広いガラス面に衝突していますが、改善策はありましたか？

⇒回答等：鳥の衝突対策につきましては、既存の環境を踏まえた対応策を検討してまいります

○利用者アンケートで駐車場が夜薄暗いのでもう少し明るくしてほしいという要望がありました。実現可能でしたら冬季の間だけでも明るくすることはできないでしょうか。

⇒回答等：駐車場照明については、安全性の観点から関係部署と連携しながら改善の可能性を検討してまいります。

○施設、設備の老朽化は、検討が必要ではあるが、人口の推移も考慮すべきかもしれない。

○飲み物スペースは必要かもしれないが、食事する場所まで確保する必要があるだろうか？

⇒回答等：飲食スペースのあり方につきましては、図書館としての静かな閲覧環境とのバランスも含め、様々なご意見があるものと認識しております。

一方で、近年は「滞在型」の図書館として、多世代が長時間安心して利用できる環境づくりも求められております。

今後につきましても、既存施設の活用や利用実態を踏まえながら、利用環境のあり方を検討してまいります。

○長期休みなど学生が勉強で来館すること多いと思うので、周りが気にならないような個別席が増えればと思います。

また飲食が出来るようなテーブル席があると長時間利用できると思います。

⇒回答等：ご意見ありがとうございます。

長期休暇期間を中心に、学習目的で図書館を利用される学生・生徒が多いことは認識しております。

個別席や飲食可能スペースにつきましては、施設面や既存スペース活用とのバランスも踏まえながら、より快適に利用できる環境づくりの参考とさせていただきます。

○老朽化が進む施設をこれだけ清潔感持続・居心地良い空間を維持して下さっている日頃の努力に感謝致します。

○第一駐車場車いす対応表示、県の「おもいやり駐車場」施策にいち早く取り組まれた事にも感謝しています。

○イ：既存施設の活用としての「学習室」や「ゆる読デー」利用率を上げる広報を工夫されたい。

その他（ご意見等）

- 図書館スタッフさんがいつも行事や展示に追われながらもカウンターでは丁寧な対応されている姿を拝見しています。毎回のようには書かせていただいているのですが、行事が多すぎるのではと思っています。すぐに成果が見えることより、地道な日々の研鑽（本を知る・特に児童の担当の方）、レファレンスや展示を大切にと思っていますので、そちらが落ち着いてできるような環境をと切に願っています。
- 前館長が杉戸に行かれるということで残念ですが、本当に10年間お世話になりましたお疲れ様でした。館長のお人柄で私も（おそらくスタッフさんも）緊張せずに、楽しく仕事ことができました。この期間に育まれた人脈でさまざまな交流やイベントもできたと思います。これからも引き継がれていきますように。本当にありがとうございました。
- 図書館協議会の席上、他の委員から本の紹介が名詞ではなく動詞で行われていて良かった旨の発言があった。それで考えたのですがこれからの図書館の役割も「読む」だけではなく「作る」「育てる」ということを考えたかどうかと思いました。実は私の知人の子どもに安藤榮作という彫刻家がいる、その人の話を聞いて思ったことです。彼は平櫛田中賞や円空賞を受賞しています。安藤さんは、東日本大震災当時いわき市の海岸沿いに住んでいて、家と仕事場と保管してあった数百の作品、そして愛犬を大津波で失いました。「翌日には30km北で福島第一原発が爆発。放射能の被害を恐れ私たちは避難を開始した。新潟や東京の実家を行き来しながら2か月半後に本格的に奈良県に避難移住した。」といます。彼は昨年9月から11月にかけて奈良県立美術館で彫刻展を開催し、その展覧会で令和7年度（第76回）芸術選奨文部科学大臣賞を受賞しています。この展覧会に合わせて1時間あまりに及ぶインタビュー（https://www.youtube.com/watch?v=EJ_tnwLoeS0）が公開されていて、その中でとても印象に残った発言がありました。それは、彼が美術関係の予備校の講師をしているときに学生を連れて彫刻家佐藤忠良のところに行った時の話です。福音館の「おおきなかく」の絵も描いている彼の話してくれた体験談。「シベリア抑留の経験があって向こうで捕虜になって、食い物は無い、寒さで住むところもボロボロでだんだん死んでいくじゃないですか、仲間たちが、強制労働などで。そういう中で、なかなか死なない人たちがいるんですよ。それはもともと頑丈とか、屈強な体とか、健康な体とかを持っているということとは全く関係なくて何か詩を書いたりとか、歌を歌うことが好きでいつも歌っていたり、その辺にあるもので物を作ったり、大工仕事が好きでいつも小屋を直している、そういう自分で何かを生み出せる創造行為をやる人たちが最後まで生き残っていくんですよ。だから君たちもアートをやりな、彫刻を作りなよ」と言っていた。それは結局食い物がなくても住むところがなくても人間が生み出す行為そのものが生命エネルギーを循環させていくということじゃないですか。人間特有の存在の仕方なんですよ。」この話を聞いて数年前に書いたことを思い出しました。
- 「図書館サービス概論」（ベーシック司書講座6 学文社2028 宮代町立図書館で所蔵）「高齢者サービス」（P54～59）の中で「高齢者の欲しい情報、タイムリーな情報を提供する」という項があり、そこで高齢者によく学ばれる学習内容を支えるポイントとして3点あげています。1，過去・未来とのつながりの学習。2，土による

学習。3, 超越への学習。この2について「幅広く『作る・育てる学習』にとらえ、絵・彫刻、料理や手芸、孫世代の子守や子どもへの絵本の読み聞かせなども含んで考えたらどうだろうか。」と提案しましたが、先の佐藤忠良の話などとの関連で、短歌や俳句を作ること、生き物を育てることなども含めて、高齢者のみにとどまらず子どもから大人まですべての年代に対する資料提供を通じて、生み出す行為への図書館の積極的な関与が求められているように思います。本を読むことによる「想像」をもう一步進めて「創造」を支援する図書館を目指して欲しいです。

○図書館の皆様にはいつも大変お世話になっております。

今は大学生の息子ですが、小学生の頃はぬいぐるみお泊り会が大好きで毎回参加させていただきました。ぬいぐるみが楽しんでいる様子を見ることが出来たり、自分では選ぶことがないような本との出会いもあり私自身も楽しめました。

司書の皆様のご尽力に感謝しております。

子どもの頃に本に親しんだ子達は、一度本から離れてもまた本に戻っていくと思います。

図書館が、敷居が高く特別な場所ではなく気軽に楽しめる場所になるよう私も読みがたりボランティアを通して本の楽しさを伝えていきたいと思います。

○年度末モニタリングに際してビジョン基本理念・基本方針でいう「すべての人に」ついていつも考えます。

世の中、本の嫌いな人、情報を必要としない人、娯楽だけでいい人 etc …多種多様です。「すべての人に」ってご免なさい机上の理想論でしかない気さえしてきました。現状来館者の多数は趣味(読書)娯楽(AV)情報(新聞・雑誌)目的で館はその人達を待つ受動的形態でしょうか。

ICT(情報通信技術)は今やAIまで作動。日々進化する現実の中で図書館はどのようにニーズに応え情報拠点・知の拠点になれるのでしょうか。

私自身は、やはり「紙」の「本」の力を信じたい。

そして、図書館所蔵「本」(あえて一般の人たちにはピンと来ない「資料」とは言いません)は町民ひとりひとりの貴重な“財産”だという意識を持って貰えれば理解が進み、利用されるようになる。「すべての人」につながるのでしょうか。

その貴重な財産をどう活かすか、よろしく願いいたします。